

此の寮よりの児

(平成二十八年 度寮歌)

小松遼貴君 作歌・作曲

一字に集いし青二才共に三途の川は未だ遠く
四の五の言わずも六華で過ごさば北斗七星背を照らす
八紘辿りて九遠を巡らん十色の明日へといざやいざ

抒

北の都に若人が

大きな理想抱え来て

明ける月夜に継がれる人情

飽くまで語り前途見遣れ

寮清ければ我等住まぬ

把

恵みの雨も降りしきり

迪を呑み込む時化呼べど

帆を張れば平らぐ濤燦然と

確と舵取れ其の身空

我等の寮得たるが如く

究

寮で相撃つ竜と虎

歌い響かす己が 大志

琢磨し君と此処寮を以て

咲きつ根張り胸を反れ

我等と寮となれこの日々よ